

令和３年１２月１日

（送信枚数：全６枚）

各位

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

東京都高齢者福祉施設協議会

会長 田中 雅英

第１６回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京' 21」

審査結果について（ご報告）

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第１６回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京' 21」の開催にあたり、様々なご協力をいただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで無事に大会を終了いたしました。

さて、今大会の審査結果については、表彰審査委員会による厳正な審査の結果、別紙の通りとなりましたのでお知らせいたします。

なお表彰題数は各テーマ１題ずつとし、受賞した施設・団体の一覧は、顕彰の一環として、本会ウェブサイトをはじめ、広報誌等に掲載させていただく予定です。

記

１ 審査結果 別紙のとおり

２ 問合わせ先 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当（林・野崎）
（電話）03-3268-7172 （FAX）03-3268-0635

第16回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京'21」 審査結果

各テーマ、口演発表の総得点数が1位のものは優秀賞として表彰し、賞状、トロフィーを贈呈いたします。

テーマA 食事・栄養・口腔ケア／医療・看取り介護

優秀賞

東京令和館 中野（社会福祉法人 東京武尊会）／ 松山 貴恵さん

主題 常食がもたらす入居者の食事の楽しみへの効果と、さらなる食生活への改善

副題 食形態改善に伴うコスト削減

審査員からのコメント

【西村】・新規性に欠けるが汎用性があり、重要な研究である。

【山元】・テーマは素晴らしい、利用者を元気にするための取り組みと最終的に経費削減にも効果的で利用者に還元されているところがよかった。

第2位

特別養護老人ホーム白十字ホーム（社会福祉法人 白十字会） 君塚 隼さん

主題 感染症拡大予防のためのシミュレーション

副題 正しい知識と意識の統一が拡大を防ぐ

審査員からのコメント

【西村】・タイムリーなテーマであり、汎用性もある。

【山元】・平時からの感染対策に積極的に取り組みをされていることで更に効果的であることがよく理解できた。徹底した取り組みと教育（動画の視聴）は意識とスキルの統一で今後も地域への活動として継続させていくことが大切である。

第3位

砧ホーム（社会福祉法人 友愛十字会）小谷野 祐樹さん

主題 褥瘡ケアにおける経過記録のデジタル化による多職種連携にかかる効果について

副題 デジタル時代の褥瘡ケア

審査員からのコメント

【西村】・新規性もあり、今後の期待ができる研究だったが、引用する文献は査読があるものを使用して考察を深めれば、良くなると思う。

【山元】・画像の記録機能をケース検討会として定着したことは素晴らしい成果である。デジタル化の成果を利活用の生活の変化や活動記録としても追記されることを期待する。

テーマB リハビリ・アクティビティ・レクリエーション／日常ケアの向上／認知症ケア

優秀賞

特別養護老人ホーム長湊園（社会福祉法人 積善会）／鈴木 謙太郎さん・力丸 仁美さん

主題 特養で身寄りがない利用者への在宅復帰支援

副題 コロナ禍での在宅復帰 家探しからのスタート

審査員からのコメント

- 【西口】・皆様のご努力もさることながら、ご本は心配も不安もあることが想像される中、自分らしく生きたいを貫いたことは感動さえ覚えた。
- 【永嶋】・在宅復帰支援の好事例であり、大いに他の施設の参考になる内容だった。最後に残された課題や今後の課題についての言及があればさらによかったと思う。また、退所された方が地域の人や資源とどのようにかかわっていくのか、それをどのようにサポートしていくのか、ということについてもお話しいただきたいと思った。

第2位

特別養護老人ホーム白十字ホーム（社会福祉法人 白十字会）／上村 信吾さん

主題 「入れてもらった」ではなく「自分で入れた」と思える入浴支援を目指して

副題 次世代介護機器を使用して、持てる機能や生活習慣を大切に考えた入浴の取り組み

審査員からのコメント

- 【西口】・機械をうまく使い、入浴を憂鬱と感じていた利用者が入浴が好きになったとの変化は、利用者の不安に寄り添い続けた結果でもあったと思った。
- 【永嶋】・日常的に行っている介護や支援に対して、常に疑問を持つことは大切。既成の概念に捉われず、よりよい方法を模索して職員チームで取り組んだことは高く評価できる。なお、なぜ「40人中25人」という目標なのか、その理由についての説明と、今後の課題についての考察があるとさらによかった。

第3位

特別養護老人ホーム小松原園（社会福祉法人 親和福祉会）／高津 智広さん

主題 傾聴専門・介護補助員「さくら」の導入による認知症ケアへの効果について

副題 2年間で対象となる認知症の方の御様子がどのように変化したか

審査員からのコメント

- 【西口】・3大介護とは違うコミュニケーションケアに専門性を見だし実践した意義は大きい。
- 【永嶋】・大変興味深く拝聴した。とても面白い取り組みであると思う。さくらさんの属性やさくらさんご自身の感想を聞いてみたいと思った。発展性のある取り組みだと思うので、今後の展開についても期待する。

テーマC 経営・リスクマネジメント・品質・人材確保・離職防止

優秀賞

特別養護老人ホーム神明園（社会福祉法人 亀鶴会）／井上 祐介さん

主題 事業継続計画の実行性を高める取り組み

副題 職員が使える事業継続計画を考える

審査員からのコメント

【細野】・研究の内容が具体的でわかりやすい。長年積み重ねた成果が出ている。あらゆる災害に対する備えができている点、災害に対する意識の高さは他の施設の模範となる研究である。

【大木】・倫理審査工程、研究前の課題、調査方法、結果説明、提言・考察一連の流れが非常にわかりやすく根拠に基づいた信頼性のある研究発表であった。

第2位

砧ホーム（社会福祉法人 友愛十字会）／遠藤 拓也さん

主題 持ち上げない介護における介護ロボットや福祉用具の技術確認に伴う働きやすさへの効果について

副題 介護の未来を切り開く new standard

審査員からのコメント

【細野】・介護ロボットと福祉用具の活用について成功しており今後介護業界に影響を与える先駆的な取り組み。

【大木】・ロボット活用、ICTの推進は今後益々進む風潮だが、ただ道具があればよいということではなく、職員の身体を守るリスクマネジメントのために正確に使用させるシステム構築が好循環につながるということが判る良い研究内容だった。

第3位

至誠キートスデイサービスセンター（社会福祉法人 至誠学舎立川）／
今井 紗綾さん・齋藤 久美子さん

主題 安全確認の具体的な行動指針をドライバーが実践することで、車両事故は確実に減らすことができる

副題 安全運転のために、ドライバーが、何を、どのようにするべきかを明確に示して実践を促す

審査員からのコメント

【細野】・施設の問題を開示し研究の課題として取り上げ、問題をしっかり分析している。対策を講じて結果を出している点が素晴らしい。

【大木】・ドライバー個人因子による原因ととらえずに、課題と原因を事業所全体のものととらえたことでリスクマネジメントの重要性に気づける発表であった。

テーマD 福祉用具・介護ロボット・ICT・IoT・AI

優秀賞

特別養護老人ホームケアポート板橋（社会福祉法人 不二健育会）／隅田 素子さん

主題 厨房における食材発注ミスの撲滅

副題 事務作業の標準化と効率化

審査員からのコメント

【村井】・科学的アプローチに基づいて開発された発注技法は、他の施設の大きな参考になると考えられる。業務改善方法も含め、質の高い研究となっている。模範的な研究・プレゼンテーションである。

【宇井】・仮説立案や仮説検証において適切なフレームワークを使用されており研究としてのレベルが高い。また要因分析の際に「施設理念よりあえて業者数は減らさない」など、単純な効率化ではなく、法人としての思想を反映させている点なども高評価。波及効果で職員さんたちの食事への意識向上されたのも素晴らしい。

第2位

砧ホーム（社会福祉法人 友愛十字会）／元山 大輔さん

主題 インカムの活用が叶える「働きやすさ」と「サービスの質」の両立

副題 生き残りを掛けた介護現場改革 We are reforming for survival.

審査員からのコメント

【村井】・情報共有ツールであるインカムの利便性向上による職員連携の充実の実際に関する取組として、大変参考になる内容である。

【宇井】・声による情報伝達は、両手のふさがりやすい介護現場にとって大きなメリットがあるが、導入・定着には地道な努力が必要である。個別イヤフォンを配るなど、細やかな導入フォローが素晴らしいと評価。また入居者さまへのケア質向上につながっているのも素晴らしい。

第3位

特別養護老人ホーム神明園（社会福祉法人 亀鶴会）／星野 浩基さん

主題 アシストスーツの使用効果検証により機器使用の定着を図る取り組み

副題 腰痛と疲労度の変化を実感することから始める意識改革

審査員からのコメント

【村井】・介護職員の負担軽減に向けたアシストスーツ具体的な導入実験である。具体的な課題なども明確となり、一定の研究成果が示されている。

【宇井】・アシストスーツを導入している施設は多くあるが、あえて効果検証を行うことで、職員さんたちが意識的に機器の使い方・効果を実感できる取り組みに仕立てているのが素晴らしいと思った。検証方法についてもフレームワークを使用されておりデータ取得方法として適切。またアシストスーツを他職員さんと使い回すのは衛生的に気になるというのは、本当にちゃんと使っているからこそ出てくる意見だと思った。（その場で少し装着するだけではこの意見は出てこない）

<参考>

表彰名について

優秀賞	各テーマにおける口演発表の総得点数が1位の者
-----	------------------------

審査員

テーマ	氏名	所属・役職
テーマA	西村 一弘	駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科 教授
	山元 恵子	公益社団法人東京都看護協会 会長
テーマB	西口 守	東京家政学院大学現代生活学部人間福祉学科 教授
	永嶋 昌樹	公益社団法人東京都介護福祉士会 会長
テーマC	細野 真代	日本福祉教育専門学校介護福祉学科 学科長
	大木 一郎	NPO 法人東京都介護支援専門員研究協議会 副理事長
テーマD	村井 祐一	田園調布学園大学人間福祉学部社会福祉学科 教授
	宇井 吉美	株式会社 aba 代表取締役